小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	株式会社おいらーく	代表者	星野　二三江
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所えくぼ サテライトえくぼ	管理者	佐々木　浩二

法人・事業所の特徴	法人グループ内では病院を中心として医療・介護事業所を複数運営している。法人内にとどまらず、外部機関や事業所との連携に努め、「通い」「訪問」「泊り」の柔軟な組み合わせを意識しながら、住み慣れた自宅での生活を安心して送れるように、ご家族や地域の方の協力を得ながら支援を行っている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2 人	3 人	人	人	1 人	人	2 人	人	8 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	少しずつではあるが会議の開催なども行えている為、感染対策を十分行い事業所の自己評価をチームとして行う。	昨年から比べ会議の開催自体は増えてきているが、時短やコロナ発生により十分な時間を設ける事が出来なかった。	コロナ禍で大人数で集まれことが多かった。	感染者数が減少している時には会議の開催、又令和５年５月以降は５類に変更されるため、会議体も通常通り開催出来るよう努めていきたい。
B．事業所のしつらえ・環境	居室だけではなく併設住宅と連携を取りながら馴染みの物だけではなく季節柄の装飾も行う	季節や行事の際には雰囲気を出すための装飾などは行えた。 事業所付近の清掃やゴミ拾いも行えた。	町内からやご家族の面会も以前よりも少なくなっている。 その為、事業所は入りやすい空間づくりは出来ていない。	面会や来訪も以前より増えてきており感染対策を継続しつつ入りやすい空間作り（季節物を取り入れる等…）を行いたい。
C．事業所と地域のかかわり	コロナ禍の為、発信方法等慎重に検討しながら提案していきたい。	運営推進会議等書面での開催しかできていないのが現状…。 推進会議の案内は郵送ではなく、直接地域住民のご自宅に伺い、地域の情報を取り入れるようにしている。	ここ数年コロナ禍もあり交流が出来ていない。 町内の行事などは推進会議も書面となってしまったため回覧板などで情報収集を行った。	令和5年2月より運営推進会議を再開。地域からの意見や情報も直接聞くことが出来るようになると思われる。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域に『えくぼ』を知ってもらうことで事業所だけにならずサービスや地域との交流の幅が広がるため、ボランティア活動等行事以外でも参加していきたい。	今期もコロナ禍の影響が大きく積極的な活動が出来なかった。 その中でも後半には少しずつではあるが地域資源を活用し買物や理美容など利用することが出来た。	コロナが発生すると地域資源の他にも通いサービスや入浴を中止する事になってしまい居室で過ごすことになってしまう。 そのため ADL の低下が見られてしまった。	令和５年５月よりコロナは５類に変更になると思われるので地域行事など開催されれば参加していきたい。
E．運営推進会議を活かした取組み	以前のように会議の開催が行えるかは未定の為、意見交換の場などどのように行っていくか改めて検討していきたい。	今期は書面会議という事もあり事業所からは一方的な情報のみとなってしまった。	地域との交流が出来ていない。 現状のコロナ禍では難しい部分がある。	令和5年2月からは運営推進会議を再開しており地域からの意見も取り入れて運営に活かしていきたい。

Ｆ．事業所の 防災・災害対策	今期同様に実践に近づけた訓練を実施し対応方法や知識などの向上に努めていく。	避難訓練の実施予定日とコロナ発生が重なることが多く十分な訓練が実施できなかった。	町内を巻き込んだ訓練の実施が出来ていない。事業所間で完結してしまっている。	まずは事業所間での災害時の対応、対策を整えていきたい。